

なづけのない現在の矛盾した保育所の実態をのぞいた気がする。

以上の私達の研究結果から保育所がその本来の使命に基づいて最も保育を必要としている筈の階層に果してどれだけ保育の手をさしづべているのか、その本当に必要としている人々に充分利用されているのかという新しい課題に直面した次第である。

家庭との関連について

の一考察

山王保育園

小林 みつ

幼児の心身の健やかな成長を願いあらゆる角度からの研究が進められつつあるとき、私共保育者は日々幼児を診断し指導し心を砕いて居るがただ子供ととりくんで居るだけで保育の効果を望むことは出来ない。子供が育くまれつつある家庭の理解と協力のもとに保育がなされてはじめて研究の効果も子供の上によりよく生かされて来るのではなからうか。殊に保育所ではこの家庭の問題をおろそかにする事は出来ない。両親の眼をもっと幼児の上にもけるようにして、家庭と私共と同じ方向にむかって子供を育てるべきであるという観点からこの家庭との関連についての問題をとりあげてみた。

私共の園は長野市では下町とも考えられる場所にあり、地域内には児童の小遊園地二ヶ所小学校校庭、日赤病院の庭以外には広い遊び場がなく、数多く遊び場としてあげられている道路は自動車の往

来が頻繁な所で、商店では両親の殆どが終日営業に従事し、工業も家庭内での小工業のため両親の労働力を必要とし、住宅も小路に密集した小住宅が多く、会社員などについても高給者は少く母の内職等によって家計を補う必要のある家庭が比較的多く保育所の必要度の高い地区にある。

こうした地区の中にあつて、父母は子供たちをどのように育てて来たか、どのように観察しているか、園には何を望んでいるか、これ等の実態を把握しその上に立って家庭との適切な関連づけを考え、て行き度いものと考えて、実態の調査をした。

現在園児は乳児を含めて定員二百二十五名、職員は保母八名の外に園長、給食婦公仕の十一名である。

健康に関する家庭保育の実態をみると第一表(略)の身体のところに示されているように殆どが正常産で出産時の体重も標準を示しているのに離乳終期が遅く平均して二十ヶ月最も遅いものは四年半と答えている点、睡眠のところを見ましても、年長組の男子で三分の一が添寝をしていると答え、歯みがきうがいをしていないものが半数を占めている点、又健康上特に注意している事についての回答では記入のないのが半数を示している。これ等の点からみて科学的な育児の上に立つ細い心づかいが欠けているようである。母親に対して健康についての知識をもつよう指導の必要さが強く感じられる。

躾の面では(第二表略)これも半数以上が未回答で、回答の中でも例えば親のいう事をきくようにというように躾を親の都合のよいように考えている処が見られ、基本的な習慣を身につけて、自立の精神を培うように考えている人が少いように見られる。小遣いについては与えていると答えた家庭では子供がうるさいから小遣いを与

えて母親が仕事をしようというので多いのは一日に五十円というのもあり、小遣いだけで放任されているようである。

友達とあそびについては第三表(略)にあるように六十八人は遊びの種類について答えてない。玩具で遊ぶというのが少いのは玩具を余り与えない事と住居がせまく家庭内での遊び場を持たないという事があげられ、させ度い遊びの中にある戸外での遊びというのは家庭内ではうるさいからという意図のうかがえるものがある。やめさせ度い遊びについてはチャンバラが最も多くあげられ、危険な遊びとあげてあるのもそれに類したものと考えられる。

ここで考えさせられるのは男の子の遊び中好んでするごっこ遊びの中のチャンバラを家庭ではやめさせ度いものとしてとりあげてあることである。さてこの子供が好んでしている遊びをどうやってやめさせるか、それをとりあげた後にかわるものとしての遊びをどうするかなどは共に考えなければならぬ問題の一つである。

第四表(略)は両親から見た子供の姿です。両親はどんな点を子供の長所短所とみているか、ありのままの表現がほしいものと記述法をとった。その為表現の困難があったかと思いましたが、外の項目に比較して記入なしが少かったのは人柄に対しての関心度が深いものと考えられる。長所短所、改めさせ度いという処で共通して考えられている点は人との関連についての事が多くあげられている事である。

第五表(略)の家族構成をみると保育する上に問題をもつ一人子、末っ子、祖父母の同居が可成り多く、両親の学歴は小学校卒が約半数、職業は各種小売商が多く、種類も多岐にわたり、従って就労の時間もまちまちである。

第六表の園に対する希望についても割合に無関心さを示し、園に

まかせておくという態度が多くみられる。

以上の諸点から家庭との連絡のもとにより保育するには両親の理解を深めなければならぬ、その方法としては文書によるよりも面接による方がより効果があると考えられる。面接による方法にも家庭訪問などによって個々に話し合うのと多勢の場に於て意見をとり交す方法とがあるわけである。

家庭訪問の持つ意義は大きくこの効果も重要なものがあるので折にふれて訪問をする。けれども個人同士の話し合いだけではいい難いことも一般論としては話し易く素直に受け入れられる点、又お互いの間に於ける働きかけから来る会合の効果も見逃せないものがあるので次の様な点を工夫して会合をもつように考えてみた。

一、時間的な考慮(家庭の職業から昼間出易い者と夜の方がよいものとあるから)
二、グループの大きさの工夫(園児が多く範囲が広いため)

三、会の内容について(抽象的なものを取り上げる前に先ず具体的な事例を通して)

一、の点から父母の会は昼間と夜間と二回にわけて同じ会をもつ。どちらかへ都合をつけて出席してほしい旨案内する。大たいどちらかに都合がつくので、出席率は一昨年度に比較してずっとよくなり夜の会には父親の出席が回を重ねる毎に多くなりつつある現状から父の会への発展が期待出来ます。昼間母が来て夜父が来るというような家庭も出て来たがこの様に両親が同じ場で共通の事を考えてもらえるのは望ましい事である。

二、の点から母親による町別のグループを作った。そのグループではその地域の実情に即して会合をもつ。会場が近いこと、時間的に集り易い点などから殆どが出席出来る。小さな集会。殊に近所の人

たちであるから誰もが自分の意見をいう事が出来、共通した子供の遊び、困っている躰のことなどから話し合いが始まりそうした場を通して、子供達は地域の中で育ちつつある事を理解し、協力の必要、地域社会のもつ意義、母親の仕事の広さなどを認識し、一歩一歩、歩みはじめている。

もう一つの方法として読書によって母親の教養を高めたものと希望の人が相寄って読書グループを作る計画をした。保母が中心になって有志的なものから漸次全体のものにして行き度いと思ふ。

以上の様な方法によって家庭との接触を工夫してみた結果、父母の園に対する関心度も大分高まって来たことは認められるし、会合についての出席率もよくなりつつあるが、まだなかなか解決し難い幾多の問題を含む家庭の指導の困難さを感じている。

保育所の現状に於ては保母は眼前の保育の仕事に精一杯で余裕をもたない事などのために企画した事もなかなか実行出来ないし、又実行しようとする時いろいろな隘路にともしれば勇気がくじかれる。

しかし保育者としての出来る限りの努力と情熱とをもって、困難な問題を一つ一つ解決し乍らよりよい保育達成のため子供をそしてそれをとりまく家庭、ひいては地域社会の指導にまで力を注ぐことの出来るようになりたいものと念願する。

調査のまとめ方についてもいろいろな問題があることと思われる。こうした調査をよりよく生かすようにまとめあげて行く為の根本的なものの研究不足を痛感した。

家庭の躰の方針と保育に

見られる児童の実態

日本女子大学

児 玉 省

一 木 友 子

各家庭ではその子女をどういう方針で躰けようとしているか、子供の実体はそれらの点について両親の目から見てどうであるか、又幼稚園の場に於てはどうであるか、親の方針と実体はどんな点で一致し、どんな点でくいちがつているか、又どんな点が欠けているか故にその点を特に留意せられているのか、こういう問題を考察しようとしたのがこの研究である。

研究対象として二つの幼稚園から満五才一六才の児童二四名(男十一人、女十三人)を選び、その両親に対して質問紙法による調査を行った。両親に対する調査の内容は(1)家庭調査及び生活時間調査、(2)躰の方針調査及び児童の実体調査で、躰の方針調査では家庭の躰の方針として親の側で考えている凡そあらゆる項目四六をとりあげ、両親の教育方針乃至は躰の重点がどこにおかれているかを見る為にその四六の躰の方針の項目を印刷したもの配付し、各家庭で最も重要視している項目から二位、三位と順次十位迄印をつけさせた。躰の方針について、親が一位として印をつけた項目には10点を、二位に9点、三位以下順次8点、7点……等を与えて親が最も重要視している項目から順次並べたものが次の表である。